

# ケータイ学習と m-Learning : ICT の私事性と公共性

西之園晴夫

Haruo NISHINOSONO

佛教大学

Bukkyo University

あらまし：ケータイを授業に使用するときの諸問題について考察し、公共性のある情報機器にする必要を主張している。

キーワード：ケータイ、m-Learning、私事性と公共性

## はじめに

ケータイは、現在では完全に生活の一部として老若男女を問わず日常的に使用されている。仕事では打ち合わせや商談，老人にとっても句会や趣味のクラブの打ち合わせなどに使われている。ところが生徒・学生にとっては本務が学習することであるにもかかわらず，学習の道具として十分に活用されていない。このような現象はわが国に特有のものであり，ヨーロッパやカナダ，アメリカではデジタル格差を解消する学習機器として期待されていて m-Learning として研究されている。このような違いはなぜ起きているのであろうか。

わが国ではケータイが私用として広く使われていて，しかも出会いサイトや迷惑メールなどの好ましくない使用が先行したために，学校が消極的となって排斥し，教育的に対応しようとしてこなかったことに起因している。筆者は 1999 年から授業にケータイを使用してきたが，今年度の授業ではこれまでと違った現象が起きているのでそれを報告する。

## ケータイ使用のきっかけと使用状況

筆者は 1999 年からケータイを授業に使用しているが，そのきっかけとなったのは大学院(非常勤)でコンピュータに関する内容を授業しているときに，学生が突然授業中にケータイを利用し始めたことである。近づいて「何をしているのだ」と注意したところ，「兄が東京のコンピュータ関係の会社に勤めているので，分からないときはいつでも聞いているの」ということであった。そのときに授業でケータイを禁止することの矛盾を感じ，それ以来さまざまな工夫をしてきた。最初は出欠をとっていたが，翌年からはチーム学習を管理運営するのにメーリングリストを作成した。2001 年度からは大学で I-support として試験的に使用し，現在では 6,500 名の学生が登録

できるようになっている。また，教員も 30 名までが参加できる容量のものを導入して，さまざまな授業科目で使用されている。佛教大学で使用している学習管理システム I-support は，ケータイでの画面は左の図のようになっている。もっとも広く利用されているのが掲示板と教材創庫であり，授業の評価にはアンケートをよく使用している。通常のパソコンによる使用でもまったく同じ機能をもっているが，違いは一度に参照できる文字数と添付ファイルをすぐに参照できるかできないかだけである。パソコンでは下のような画面になっている。

ABC概論-

▼ニュース▼  
12/15 13:00～第4回小テストを行います。  
12/22 18:00締め切り

▼出席▼  
201で講義中  
出席します

■メニュー■  
演習教室(4)  
小テスト(1)2  
講義掲示板  
教材創庫  
メールDe相談室  
レポート(0)0  
アンケート(0)  
時間割  
個人情報変更

【他の講義へ】  
【ログイン画面】

講義名：中等教科教育情報デモ

▼ニュース▼  
testtest

▼メニュー▼

演習教室 公開中0件 演習問題の自学習と履歴を見ることができます。	メールDe相談室 先生へのメール相談フォームです。
小テスト 未解答0件 成績公開0件 小テストの受講と履歴を見ることができます。	レポート 提出可能0件 成績公開0件 レポートの提出と履歴を見ることができます。
講義掲示板 この講義に関する掲示板です。	アンケート 未回答0件 アンケートの回答はこちらから。
教材創庫 この講義の電子教材を閲覧することができます。	時間割 この講義の時間割です。

## 当面している課題

ケータイを使用し始めたころは珍しいこともあって，出欠をとるときに学生はきわめて協力的であった。また，翌年はチーム学習にメーリングリストを作成して使用したが，学生はチームで発表する課題を準備するために打ち合わせるなどで活発に使用された。しかし，ここにきて状況は一変している。

今年度秋期の授業の最初に学生に C-learning

(l-support の商品名で、特別に授業で実験的に使用し)でケータイも併用することを告げたところ、「ケータイを使わなくともよいか」、「ケータイを使わないでほしい」、「ケータイを授業で使うのであれば大学は通話料を支払ってくれるのか」というような意見や質問があった。C-learning ではどのようなメールアドレスでも登録でき、学生が決めることができる。大学のメールアドレス、自宅のメールアドレスであってもいいのであるが、まったく登録しないものもいた。この授業ではチーム学習を実施していて各チームに掲示板が設けられており自由に書き込むことができる。しかし書き込みは昨年と比較してきわめて少なかった。C-learning では授業担当者が掲示板の内容を見ることができるが、オープンシステムの e-Groups を利用して誰でも簡単にメーリングリストを作成することができるので、学生は授業担当者の介入しないメーリングリストを好んで使用しているようである。

フィンランドでのケータイ利用の状況を報じた新聞記事を学生に読ませて C-learning のアンケート機能を利用して自由記述の調査をした。「フィンランドの携帯電話の活用についての記事を読んで自由に意見を述べなさい」というものである。回答をクラスで公開するが、そのとき匿名を希望するかどうかを調査したところ、回答のあった 53 名のうち匿名希望者が 23 名であり、もう一つのクラスでは 32 名の回答のうち 23 名が匿名希望であった。自分の意見表明についてもこのような匿名希望が多いが、個人的なことに関わる質問になると匿名希望はぐっと多くなる。しかも匿名希望者のなかには無責任ともいえる意見や攻撃的な文言もみられるのが学生のケータイの世界である。

### m-Learning の考え方

ケータイあるいはモバイルを教育に活用することは、ヨーロッパ、北米、カナダでは m-Learning としてきわめて活発に研究されている<sup>1</sup>。とくにヨーロッパ連合

(EU) での教育訓練プログラムでは e-Learning、m-Learning (mobile learning) あるいは t-Learning (television learning) などが期待されている。その背景にはヨーロッパが直面している失業、民族間の抗争、多国籍市民の融合などの課題が深刻であり、たとえば現在進行中の EUROPE-Education and Training ([http://europa.eu.int/comm/education/index\\_en.htm](http://europa.eu.int/comm/education/index_en.htm)) では 2010 年の教育訓練が目指されて、さまざまなプロジェクトが進行している。なかでも知識ベース社会の構築と社会的団結のために、知識の創出、分配、利用を改善する、知識ベース社会の発展のための選択をする、知識社会にいたる多様な道筋を認めることが目指されている。さらに市民、民主、統治の新しい形態のために、ヨーロッパ統合と拡大の意義、統治の新しい形態、紛争の解決と平和の再興、新しい形態の市民性と文化的アイデンティティーの重要性が指摘され、知識ベース社会での課題優先市民と統治のために 2003-2006 年の期間に 2 億 2500 万ユーロ (約 300 億円) の予算が計上されている。このようなプロジェクトの一部として m-Learning が位置づけられており、デジタル格差の解消のために PDA やケータイなどのモバイル機器がもっとも期待されている。

### 今後の課題

わが国ではケータイが若者たちに完全に取り込まれているが、私事性、匿名性、閉鎖性などが特徴となっている。学校は組織防衛のために子どもや若者のケータイ文化を排斥している。もし情報機器への初めての接し方が、人のその後の行動様式を決定するとするならば、わが国での情報化の進展は市民の私事性が優先し、公共の利器としてケータイの活用はますます後退するのであろう。そして市民社会はサル社会へと回帰して利己的となり、相互扶助を前提とする社会制度は崩壊し、社会的な連帯感も薄れていくのかも知れない。

学校教育でもケータイの問題に真剣に取り組み、その公共性を重視した教育を実施する必要がある。

正高信男(2003)：ケータイを持ったサル、中公新書

<sup>1</sup> アイルランド From e-learning to m-learning  
<http://learning.ericsson.net/leonardo/index.html>  
イギリス What is the purpose of the m-learning Forum?  
<http://www.pjb.co.uk/m-learning/>  
カナダ mLearning Consortium  
<http://www.mcgrawhill.ca/college/mllearning/>  
EU プロジェクト m-Learning  
<http://www.m-learning.org/>  
デンマーク RAFT mLearning site  
<http://www.fit.fraunhofer.de/~specht/RAFT/>

スウェーデン IEEE International Workshop on Wireless and  
Mobile Technologies in Education (WMTE'02) August 29 - 30,  
2002 Växjö, Sweden  
<http://csdl.co>